

CASBEE-建築(新築)2016年版

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

島津製作所けいはんな新研究棟(仮称:Shimadzuけいはんな新研究棟)建設工事

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート

基本設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点		重み係数		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						4.2
Q1 室内環境						4.2
1 音環境		5.0	0.15			5.0
1.1 室内騒音レベル	NC35以下	5.0	0.40			
1.2 遮音		5.0	0.40			
1 開口部遮音性能	AW遮音性能T-2	5.0	0.60			
2 界壁遮音性能	耐火遮音間仕切り壁TLD-56の採用	5.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音	床・壁・天井の3面に吸音材を使用	5.0	0.20			
2 温熱環境		3.7	0.35			3.7
2.1 室温制御		3.2	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能	窓ガラスU=3.7、窓SC=0.53、外壁U=0.64	4.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		3.0	0.20			
2.3 空調方式	床吹出し方式+輻射冷暖房方式の採用	5.0	0.30			
3 光・視環境		4.7	0.25			4.7
3.1 昼光利用		5.0	0.30			
1 昼光率	昼光率 2.5%以上	5.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備	ハイサイドライト+光庭の使用	5.0	0.40			
3.2 グレア対策		4.0	0.30			
1 昼光制御	ルーバー、バルコニー、ブラインドの採用	4.0	1.00			
3.3 照度	全般照明方式500lx	5.0	0.15			
3.4 照明制御	明るさセンサ+熱線センサによる自動制御	5.0	0.25			
4 空気環境		4.2	0.25			4.2
4.1 発生源対策		4.0	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆採用	4.0	1.00			
4.2 換気		4.0	0.30			
1 換気量	中央管理方式の空調設備が設置されている居室は30m ³ /h・人	4.0	0.33			
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積50cm ² /m ² 以上確保	5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視	空気質適正維持の管理マニュアル整備、中央監視の導入	5.0	0.50			
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	0.50			
Q2 サービス性能			0.30			4.0
1 機能性		4.3	0.40			4.3
1.1 機能性・使いやすさ		3.6	0.40			
1 広さ・収納性	全体執務スペース 3020.31m ² 、収容人数320人 9.43m ² /人	4.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33			
3 バリアフリー計画	建築物移動等円滑化基準(最低限のレベル)	4.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30			
1 広さ感・景観	執務室天井高2900以上	5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	執務室1%リフレッシュスペース+自販機有り	5.0	0.33			
3 内装計画	①建物コンセプト+②内装計画+③照明計画+④インテリアベース	5.0	0.33			
1.3 維持管理		4.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	維持管理の大きく異なる床材を接近させていない	5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保	共用部で維持管理作業が可能	4.0	0.50			
2 耐用性・信頼性		3.7	0.30			3.7
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	耐震性1.25倍	4.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクト等にガルバリウムダクトを90%以上採用	5.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要配管3種の2種類以上にC以上を採用	4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		4.0	0.20			
1 空調・換気設備	換気・空調設備の重要系統優先運転	4.0	0.20			
2 給排水・衛生設備	災害時用飲料用簡易ろ過装置の設置	5.0	0.20			
3 電気設備	非常用発電+電源設備は地下空間を避けている	5.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		3.0	0.20			

3 対応性・更新性			3.8	0.30	-	-	3.8
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	3.9m以上確保	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.12	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			4.0	0.30	-	-	
			実験室4500N/㎡以上、事務所1800N/㎡以上		-	-	
3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	屋上に余剰設備スペースを確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.5
1 生物環境の保全と創出			4.0	0.30	-	-	4.0
			自生種、適切な緑地づくり		-	-	
2 まちなみ・景観への配慮			5.0	0.40	-	-	5.0
			植栽により良好な景観を形成している		-	-	
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			5.0	0.50	-	-	
			空間提供による地域貢献、防犯性の配慮		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			4.0	0.50	-	-	
			周辺風の状況を把握、歩行者空間等へ風を導く建物配置・形状の		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.9
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制			5.0	0.20	-	-	5.0
			BPI _m =0.74		-	-	
2 自然エネルギー利用			5.0	0.10	-	-	5.0
			ハイサイドライトの使用		-	-	
3 設備システムの高効率化			3.5	0.50	-	-	3.5
			[BEI]([BEI] _m) = 0.75		-	-	
4 効率的運用			4.0	0.20	-	-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	主要な用途別エネルギーの内訳把握、分析が可能	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	管理体制が整い、目標値を定めている	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.9
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			4.0	0.40	-	-	
			節水コマ+省水型機器		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60	-	-	4.2
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
			地盤改良のセメントに高炉スラグを採用		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			5.0	0.20	-	-	
			OAフロア、ビニル系床材、ボードロックウール吸音板)		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			5.0	0.20	-	-	
			OAフロアの使用		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.30	-	-	
			ビニル床タイル・壁紙の接着剤、シーリング材		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=50未満の断熱材の使用	4.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
			CO2排出率削減に配慮		-	-	
2 地域環境への配慮			4.3	0.33	-	-	4.3
2.1 大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
			燃焼器具無し		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			4.0	0.50	-	-	
			気象庁の気象データを用いて卓越風等の風環境を把握している		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	雨庭による対策	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	適切な量の駐車場を確保している	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別回収や集団回収を行っている	5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.4	0.33	-	-	3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.3	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制	日影規制に対して1ランク上の基準を満たしている	4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策」「広告照明の扱い」チェックリストの過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	住宅地側ガラス部にはルーバーを設置している。	4.0	0.30	-	-	